

『時』 雜 片

●猫の目にて時を知る術

六ツ丸く五七玉子に四ツ八ツ かきのさね也九ツははり



註 六ツ午前及午後六時、五ツ午前八時、七ツ午後四時、四ツ午前十時、八ツ午後二時、九ツ正午、附圖まであつて却々面白いと思ひます。

●鼻いきで時を知る術

はないきは六ツと四ツ八ツ右のより 五ツ九ツ七ツ左よ

註 これはどうかと思ひます。各自實驗してみして下さい。

名古屋 村上 忠 敬

ゼンマイ仕掛の……………機械時計は  
いつ頃どこに……………出来たのでせう？

時計にしても、一番最初のものといへば、エヂプトの太陽時計、朝鮮の水時計など有名なものですが、その他砂時計があり、振り時計といふものもあり、それらはすでにどこの國からどこの國へ渡つたと云ふものではなく必要にせまられたそれぞれの民族が、それぞれ工夫し、考案によつてつくり出したものです。で、ゼンマイを用ひる。つまり今日の機械時計にしても、精密工業を誇るドイツですら今から廿五、六年前やつと作つたものですが、我が日本では、徳川の末期、嘉永三一五年につまり八十年以上もの昔にすでに久留米藩の田中久重といふ人が四百巻の立派な所謂萬年時計をつくり現に上野の科學博物館に陳列されてゐます。實に精巧なもので、七寶作りで六角になつてゐる、上は地球の自轉と公轉を示し、六角はそれぞれに時間、日、週、月、十二支、といふものまで指すやうになつてゐるのです。つい數年前この田中久重に贈位になつたのですが、我日本の大きな誇りでありませう。なほその後の機械時計の發達にしてもヨロツバ諸國では首から胸へまるで大きな勳章のやうにブラさげてやうやくポケットへ入れるやうにしたものですが、日本では根付とか印籠とかにした實に氣のきいたものをつくつてゐます。